

新しい世界に飛び出し、見つけた自分の付加価値

プライスウォーターハウスクーパース（株） CNCP 個人会員
中島 満香



私はこれまで、建設コンサル会社で10年間、外資系コンサル会社で2年間、行政機関を相手に公共事業の調査、設計、発注支援等を行ってきました。皆様もご存じの通り、行政相手のコンサル業務は激務で、繁忙期には数日家に帰れないことも珍しくない状態です。

こんな職場にしながら、2009年から本業とは別にNPOの中間支援団体「特定非営利活動法人ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京（SVP東京 <http://svptokyo.org/>）」に参画し、社会課題を革新的な手法で解決する社会起業家と二人三脚で、事業を成長させるべく協働を行ってきました。SVP東京は、社会課題の解決に人生をかけて取り組むNPOに寄り添うビジネスパーソンの集まりです。経営コンサルやベンチャーキャピタル、金融機関等に勤める100人以上のメンバーと一緒に、平日の深夜に協働先とスカイプで事業計画について議論し、週末は助成金申請のお手伝いをし、行楽日和にイベントスタッフとして汗を流す日々を、もう7年間も続けています。

〇改めて気づいた、行政コンサルとしての付加価値

SVP東京が協働する社会起業家の多くは20~30代と若く、いくらかのビジネス経験はあるものの行政との連携についてはほとんど経験がないため、どうやって行政にアプローチしていけばいいのかわからないという課題を抱えています。一方で、一度やり方が分かれば起業家マインドを遺憾なく発揮して事業を拡大し、社会に対して大きなインパクトを与える可能性も秘めています。私が行政機関相手のコンサル業務で培った行政連携のちょっとしたコツを社会起業家にお伝えすると、その後見違えるように成長していった団体も数多く存在します。

このような経験を通じて、「行政コンサル」という存在が社会に対してどれほどの付加価値を生み出せるのか、改めて気づかされました。そして、その価値は、会社と自宅を往復するだけの日々では決して見いだせないことも身に染みて感じています。

CNCP会員の皆様は忙しい日々をお過ごしかと思いますが、ぜひ、違う世界に飛び込んでみていただきたいと思います。改めてご自身の付加価値の高さに気づかされること請け合いです！

〇仕事での悩みが、NPO支援に踏み出すきっかけに

と、こんな大きなことを言っていますが、そもそも私がNPO支援の世界に飛び込んだのは、ある仕事での行き詰まりがきっかけでした。水源地域の活性化支援業務に携わっていた私は、地域の方と様々な活性化イベントを仕掛けながらファンづくりに奔走し、地域の活性化と自立支援をしていましたが、ある年行政からの支援業務委託が終了。その後、その地域では活性化活動が困難となり、イベントの規模縮小や廃止が相次ぎました。地域の方からは行政に対する批判の声も聞こえます。このような状況になって初めて、私は自分の仕事が失敗だったことに気づきました。私は「イベント等で（一過性の）賑わいを生む」ことに終始し、「行政の支援が終了しても地域が自立できること」をおろそかにしてしまったのです（今考えても後悔です）。

その後、過疎地域が自立するために必要なノウハウを積むため、NPOの経営支援について勉強を進める中で、ビジネスパーソンがNPOを支援するSVP東京にたどり着きました。この7年間で様々なNPOの成長を支援することができ、国の白書で取り上げられるほどの実績を上げたNPOもあります。また、SVP東京の仲間からも刺激を受け、自分では気づかない自分の価値にも気づく機会をいただきました。

失敗は新しい自分を発見するチャンスだと言いますが、今では仕事で行き詰るたびに、「これも良い経験。次のチャレンジに向けた必要な試練だ」と自分に言い聞かせ、軽やかに乗り越えています。失敗をチャンスにつなげることができれば、プロとしても、一人人としても、きっと大きく成長できるはず。これから楽しみなことばかりです。